

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 20 年 4 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 20 年 1 月～3 月期の実績および平成 20 年 4 月～6 月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	21 社	70.0%
水産業部会	30 社	19 社	63.3%
機械工業部会	30 社	18 社	60.0%
建設業部会	30 社	16 社	53.3%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	20 社	66.7%
合 計	150 社	94 件	62.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概 況

－業況は横ばい次期好転見込み－

### 1. 全体の動き(業況)

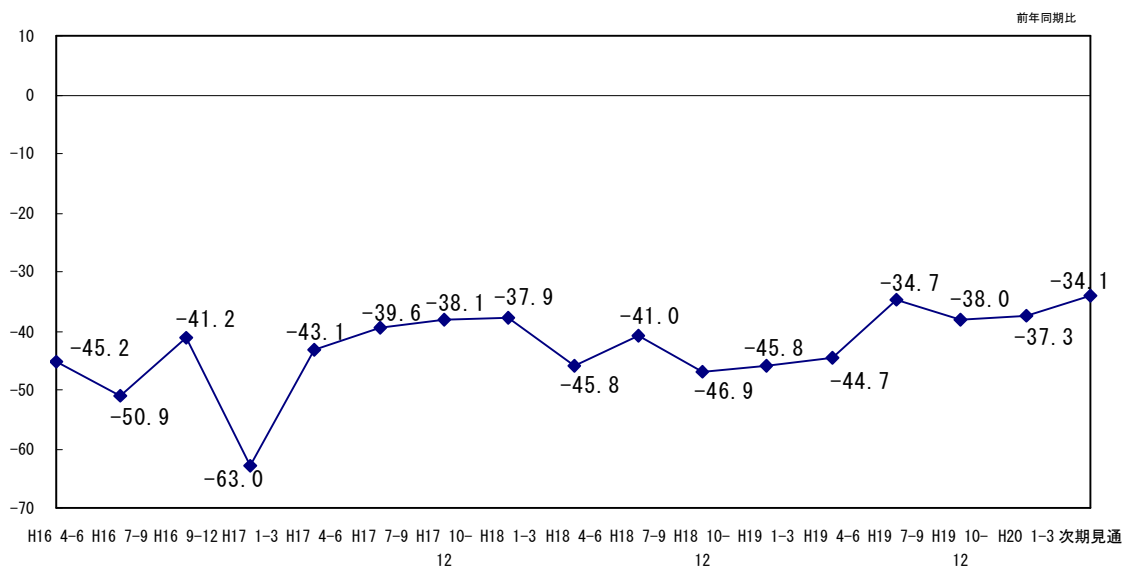
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成20年1月～3月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△37.3**と前回調査時の△38.0とほぼ横ばいの状況となりました。H16年度調査以来マイナス30%台からマイナス40%台を常に行ったり来たりし、本年度も一年を通して低迷した業況は改善されず、市内経済を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いています。特に流氷観光シーズンに期待が集まった観光・サービス業部会からは全部会の中で最も厳しいとの声が多く寄せられ、特に今年度は**全業種から原油高騰とそれら関連製品の高騰及び資源物価高による影響が経営を圧迫している**との声が多く、今後の対策が必要と思われま

す。部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業 [前期△44.4→今期△38.1]、水産業 [前期△26.1→今期△26.3]、機械工業 [前期△56.3→今期△33.3]、建設業 [前期△25.0→今期△31.3]、観光・サービス・諸業 [前期△42.1→今期△55.0] となりました。業況は依然マイナス水準で推移しているものの、**商業・食品業と機械工業**においてはマイナスながらも**やや改善する動き**がみられ、今後の期待されます。

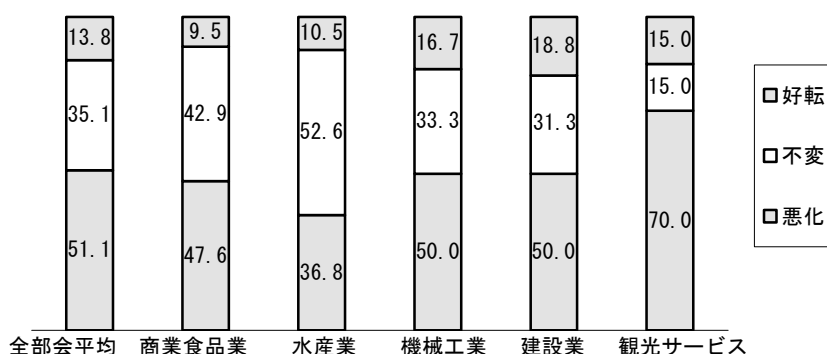
**来期(平成20年4月～6月)**については、今期と比べて**業況判断DIが3.2ポイント改善**するとの見通しである。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転－悪化)



### 今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、**材料・仕入単価の上昇、それ以外の経費の増加による負担増および需要の停滞**を訴え、諸経費の削減や設備投資の見送りになどによる対応に苦慮しているとの声が多く寄せられています。

また、金融機関の貸出姿勢は**借入金の金利の上昇や資金調達を不安視する声**も寄せられており、経営は苦しい状況に立たされ借り控える姿も見受けられます。

全体的には人口減少による**将来への不安やこの先の事業について見通しが立たない状況など**市内経済回復への兆しに絶望感すら漂わせております。

#### ■部会別の動向

**【商業・食品業部会】**〔業況判断DI値（前年同期比）△38.1（前期△44.4、来期見通し△42.9）〕

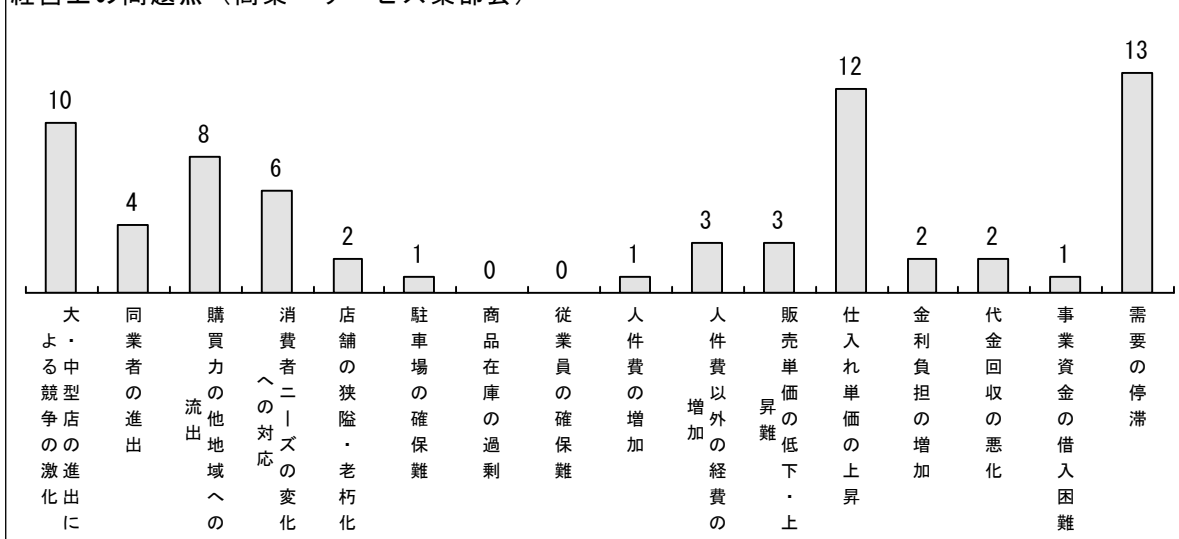
業況DI値（前年同期比）は、ほぼ横ばいで依然厳しい状況で推移しております。冬物の動きが鈍く苦戦が見られたほか、人口の減少や長引く不況による購買力の低下を訴える声が多く寄せられています。夏物商戦に向けて期待を持ちたいところです。

経営上の問題点としては「仕入れ単価の上昇」「需要の停滞」に加え、「大・中型店の進出による激化」を訴える声が多く寄せられています。

#### 《業界の問題点等》

- ・人口の減少とともに需要も減少しているため、紋別だけの売上だけではやっていけない。ネット販売の売上を加えてやっと前年と同じになり、店頭売りだけではマイナスである。（小売）
- ・業界全体に渡り進展の兆しが見えてこない大変厳しい大不況である。（小売）

#### 経営上の問題点（商業・サービス業部会）

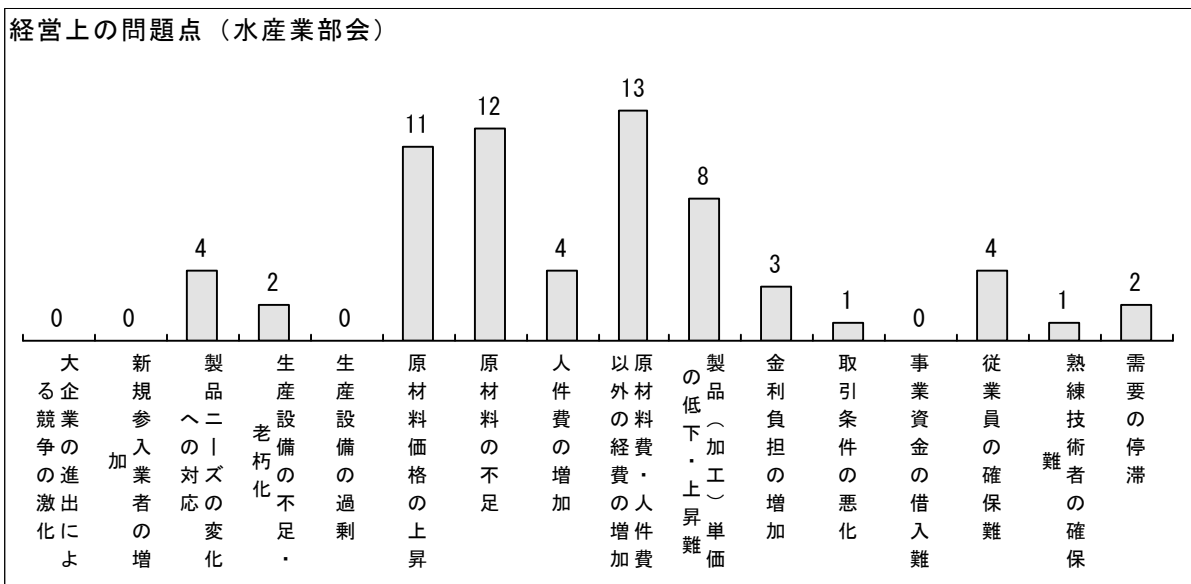


【水産業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）△26.3（前期△26.1、来期見通し△15.8）〕

流氷が去った浜の状況は、依然厳しい状況で推移している。春先の毛ガニ漁の状況は水揚量は少ないながらも毛ガニの単価が若干高めということもあり、水揚げの売上金額は前年並みで推移しているとの話を聞いている。これから夏に向けて漁が本格化していくので DI 値は期待が持てるところである。また昨年度は、ロシアからのカニの輸入額が過去最高という話題が報道されていたこともあり、次期以降もカニの輸入が安定することを期待しているところです。経営上の問題点としては「原材料費・人件費以外の経費の上昇」、「原材料の不足」、「原材料単価の上昇」などがあげられています。

《業界の問題点等》

- ・従業員の高齢化、原油価格やその他資材の値上げ、原料不足と価格上昇。（水産加工）
- ・原料確保の将来的な見通しが不透明。（水産加工）



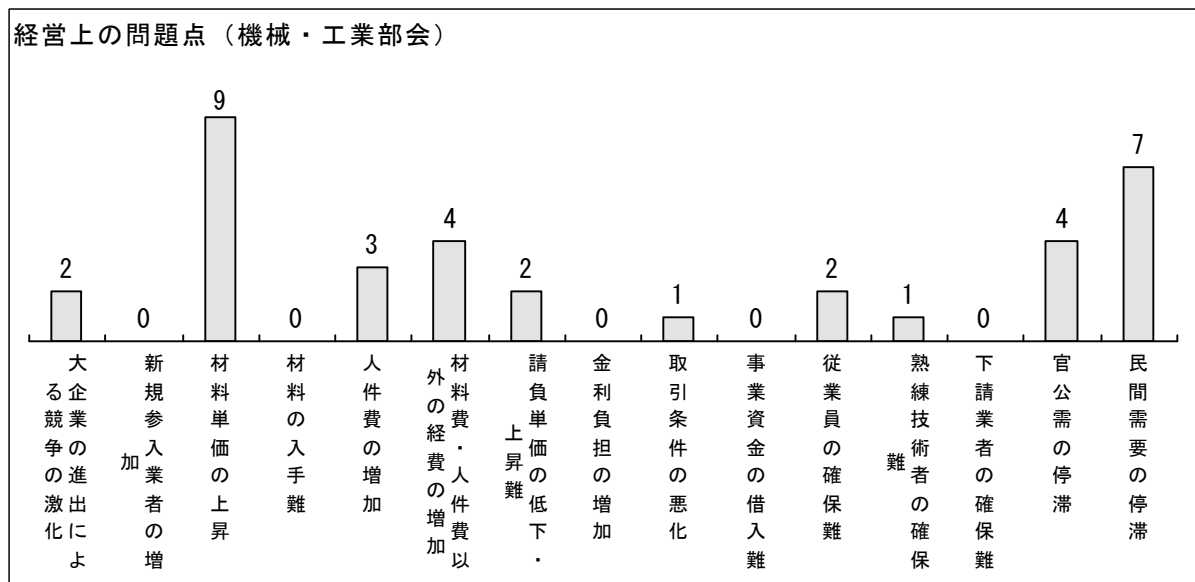
【機械・工業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）△33.3（前期△56.3、来期見通し△44.4）〕

前期大幅に悪化した業況判断 DI 値（前年同期比）ですが、今期は前期比で 23.0 ポイント回復しました。道路特定財源の重量税減額のあった新車販売については、思ったほどの大きな効果は市内事業者からは聞いていない状況です。

経営上の問題点としては、「材料単価の上昇」、「民間需要の停滞」などが寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・紋別市人口減少の為、売上低下（修理販売）
- ・冬期間、漁業は休業しているので仕事はありません。例年 1 2 月～3 月までは船舶関係の電機の仕事はないので、当社も休業同様です。（電機）
- ・業界の環境悪化（農業）
- ・①経費物価の上昇により、生産物販売価格が上昇したが、経費高に追いつかない為、経営の悪化が続く。 ②生産量の制限が続き、増産によるスケールメリットが出来ない為に経営が伸び悩み、投資増加が見込まれず業界が冷え込んでいる。 ③国の食糧自給率向上への対応が見られず、又、食糧確保（輸入）が出来ない状況にある中、早急に食糧増産方向付けに、商工会議所等の組織が立ち上がり、JA と共に働きかけが必要だと思ふ。（農器具販売）



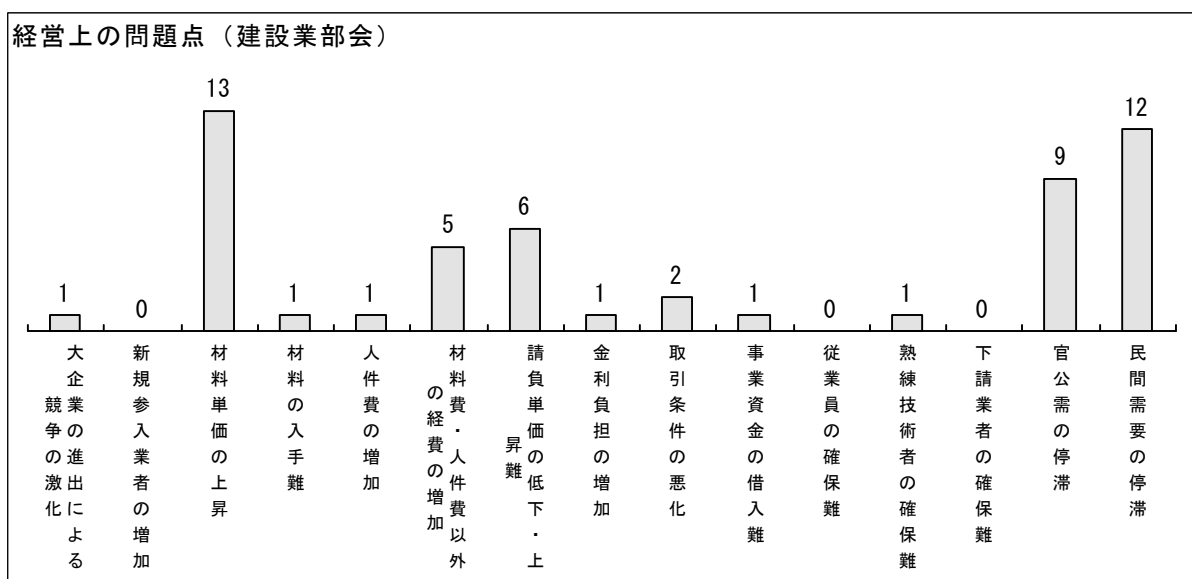
【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△31.3（前期△25.0、来期見通し△18.8）〕

業況判断DI値は依然として厳しい状況が続いており、全体的な工事量が少ない中において価格競争も激しくなっており中小企業も苦戦しています。特に下請企業は工事金額の減額や下請工事の激減など苦しい経営状況にたたされておられ、危機的状況な事業者もだんだん出てきました。夏シーズンに突入し、工事量の増加や土木建築工事が増えることを期待したいところですが、出足は鈍い状況です。また、道路特定財源による道路工事など公共事業が一時ストップしたところもあったと聞いております。来期の見通しはやや改善するとの数字があがってきています。

経営上の問題点としては「材料単価の上昇」、「民間需要の停滞」「官公需の停滞」などがあげられています。

《業界の問題点等》

- ・①改正建設基準法が施行される事によって、建築確認申請の期間があまりにも長すぎて工事の予定が立たなくなった。②鋼材価格大幅値上げになり、請負金に影響が“大”である。（土木）
- ・今だ続いている原油高が全部に響いている。（電気工事）



【観光・サービス部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△55.0（前期△42.1、来期見通し△45.0）〕

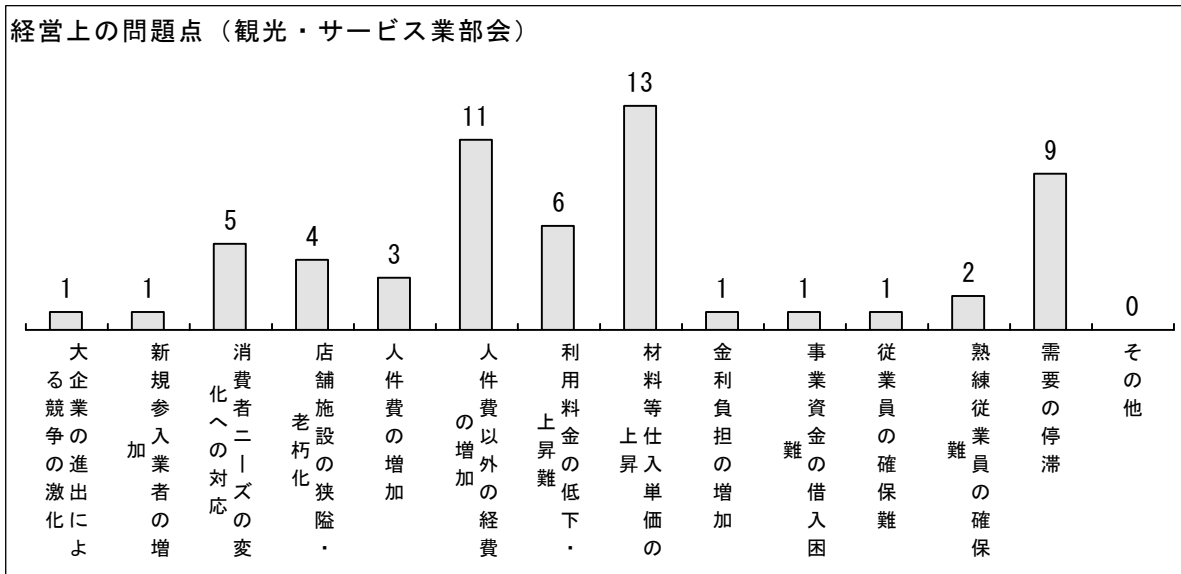
業況判断DI値（前年同期比）は依然として厳しい状況が続いております。全業種の景気状況

に左右される業種だけあって、サラリーマンの給与所得の減少や物価高による買い控えの影響で売上が激減し、特に飲食関係では小麦やトウモロコシ等々穀物相場の投機上昇による仕入れ単価の上昇が大きく影響し、さらに経営内容を苦しい状況に追い詰め、悲鳴を上げているのが現状である。

経営上の問題点としては、「材料等仕入れ単価の上昇」「人件費以外の経費の上昇」「需要の停滞」などがあげられています。

### 《業界の問題点等》

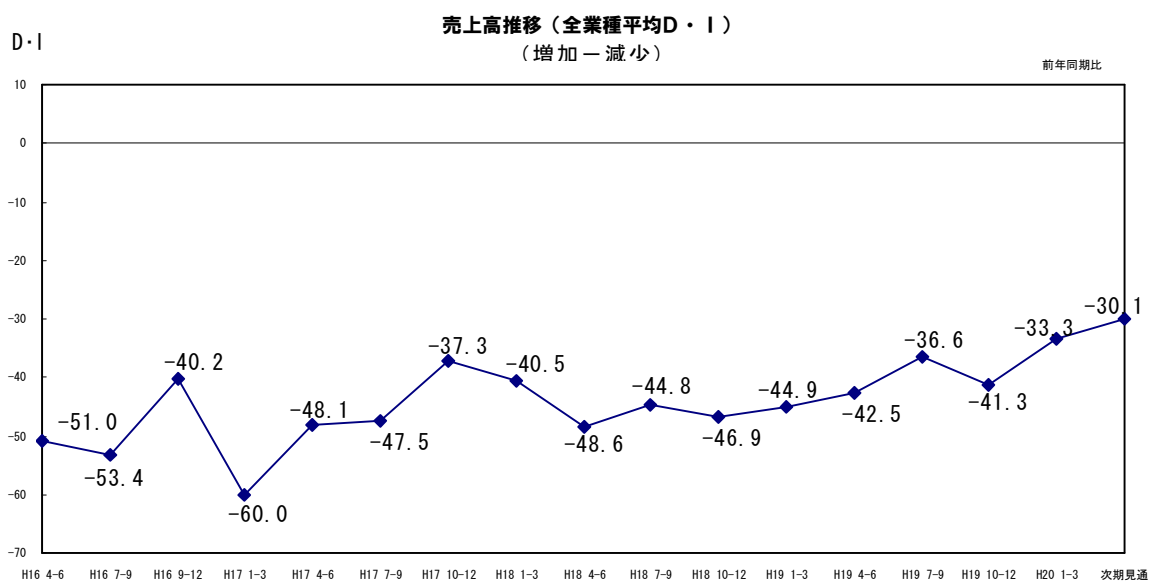
- ・人口の減少、灯油等の値上がり、物価（食品、材料等）の高騰。（飲食店）
- ・人口が増えない限り、売上・利益を上げるのは先ず無理である。（運送業）
- ・皆さん、お金を使いましょう。（飲食店）
- ・理容業は美容に流れている状況。加えて景気の低迷、賃金のカット、出稼ぎ等。残り物を大事にするごとく頑張らなくては…（理容）
- ・企業努力しているつもりだか、実を結ばない。直結しない。（飲食店）



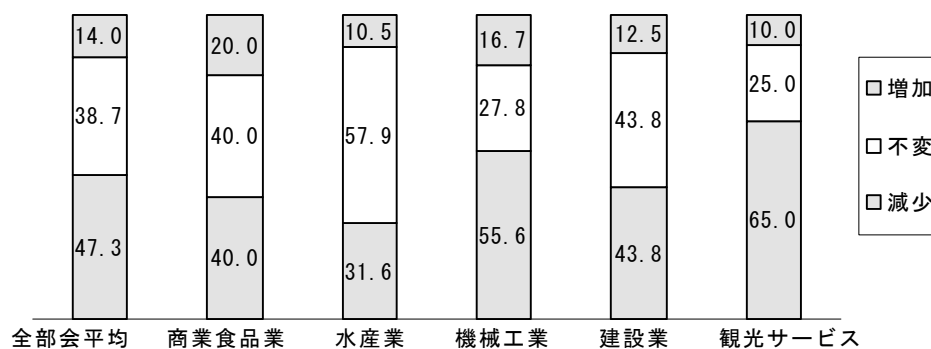
## 2. 今期の動向

### (1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成19年1月～3月期の水準と比較した今期の売上高）



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）

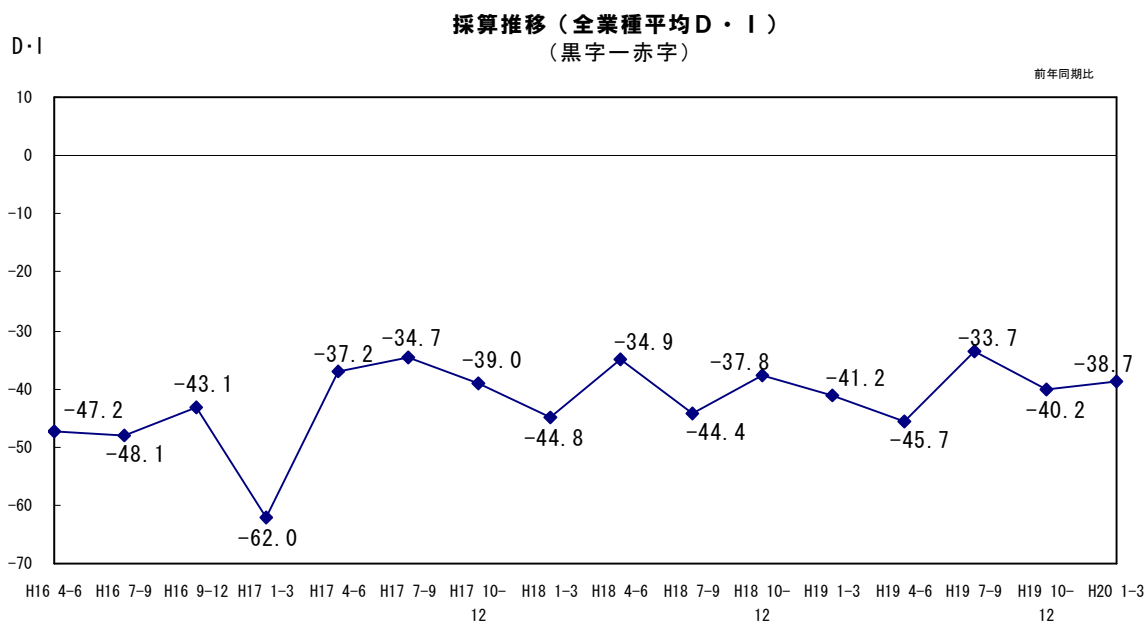


全業種平均でDI値 $\Delta 33.3$ 〔前回調査時（平成19年10～12月期 $\Delta 41.3$ ）より8.0ポイント改善〕。

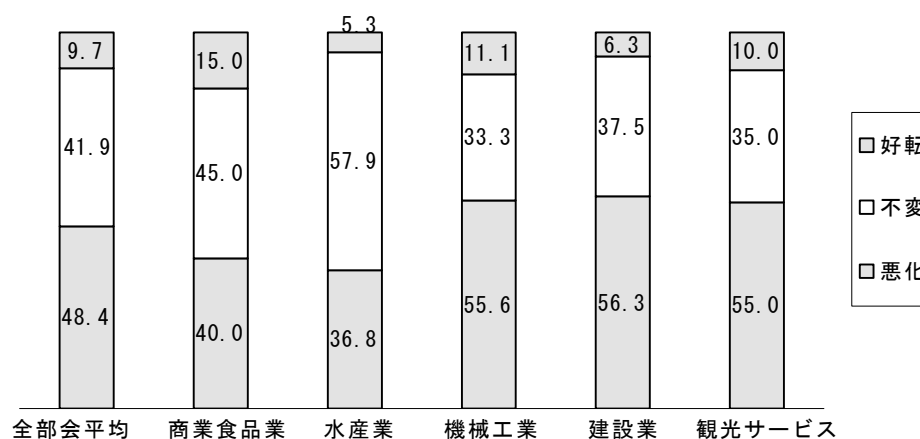
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 41.3 \rightarrow \Delta 20.0$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 8.7 \rightarrow \Delta 21.1$ 〕  
機械工業〔前回 $\Delta 58.8 \rightarrow \Delta 38.9$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 33.3 \rightarrow \Delta 31.3$ 〕  
観光・サービス業〔前回 $\Delta 63.2 \rightarrow \Delta 55.0$ 〕

## (2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 19 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の採算水準）



### 今期の採算（前年同期比）



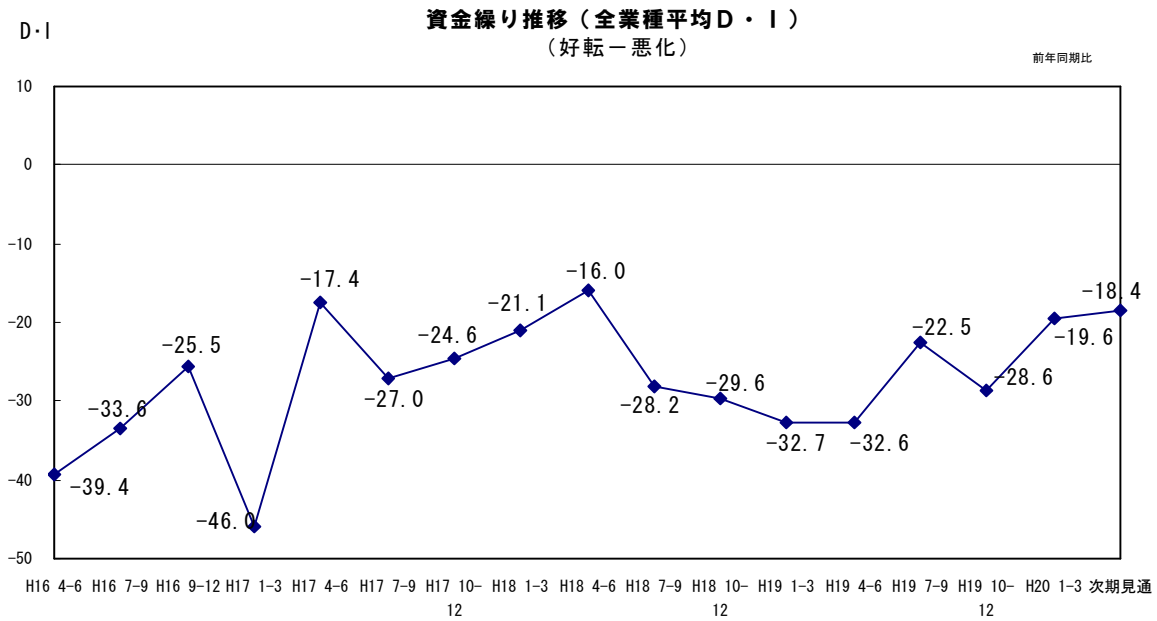
全業種平均で DI 値  $\Delta 38.7$  [前回調査時（平成 19 年 10～12 月期  $\Delta 40.2$ ）より 1.5 ポイント改善]

[部会別 DI 値] 商業・食品業 [前回  $\Delta 38.9 \rightarrow \Delta 25.0$ ]、水産業 [前回  $\Delta 34.8 \rightarrow \Delta 31.6$ ]  
 機械工業 [前回  $\Delta 37.5 \rightarrow \Delta 44.4$ ]、建設業 [前回  $\Delta 25.0 \rightarrow \Delta 50.0$ ]  
 観光・サービス業 [前回  $\Delta 63.2 \rightarrow \Delta 45.0$ ]

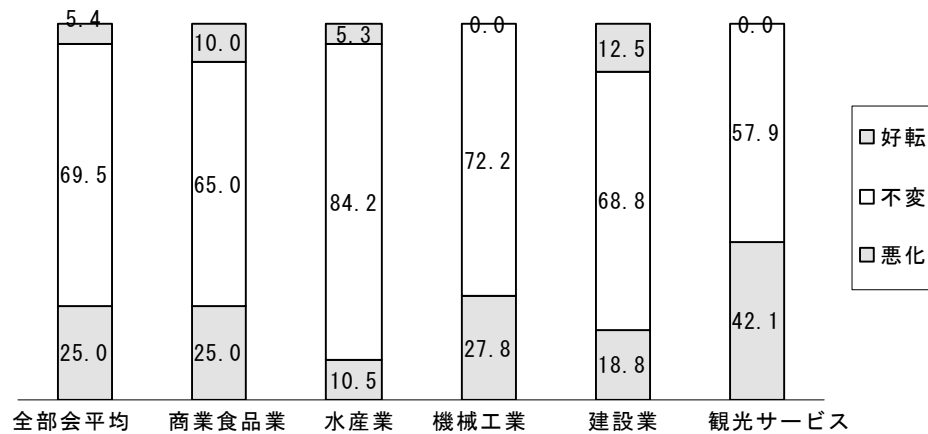


### (3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 19 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の資金繰り）



### 今期の資金繰り（前年同期比）



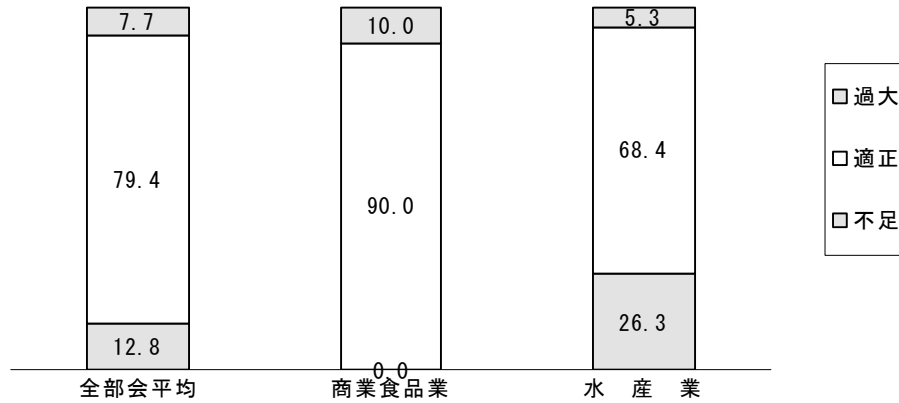
全業種平均でDI値 $\Delta$ 19.6〔前回調査時（平成 19 年 10～12 月期 $\Delta$ 28.6）より 9.0 ポイント改善〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta$ 27.8 $\rightarrow$  $\Delta$ 30.0〕、水産業〔前回 $\Delta$ 17.4 $\rightarrow$  $\Delta$ 10.5〕  
 機械工業〔前回 $\Delta$ 31.3 $\rightarrow$  $\Delta$ 27.8〕、建設業〔前回 $\Delta$ 28.6 $\rightarrow$  $\Delta$ 6.3〕  
 観光・サービス業〔前回 $\Delta$ 38.9 $\rightarrow$  $\Delta$ 42.1〕

#### (4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 19 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



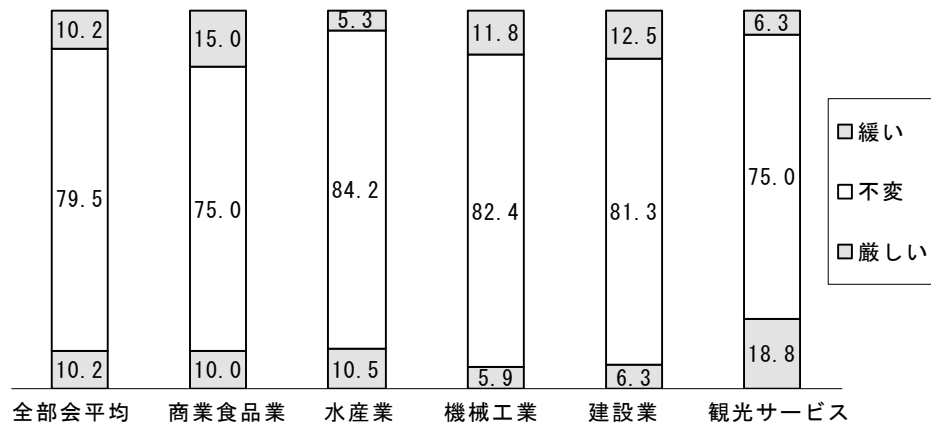
全業種平均で DI 値 $\Delta$ 5.1〔前回調査時（平成 19 年 10～12 月期+7.4）より 12.5 ポイント在庫減少〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta$ 5.6 $\rightarrow$ 10.0〕、水産業〔前回 17.4 $\rightarrow$  $\Delta$ 21.1〕

#### (5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 19 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

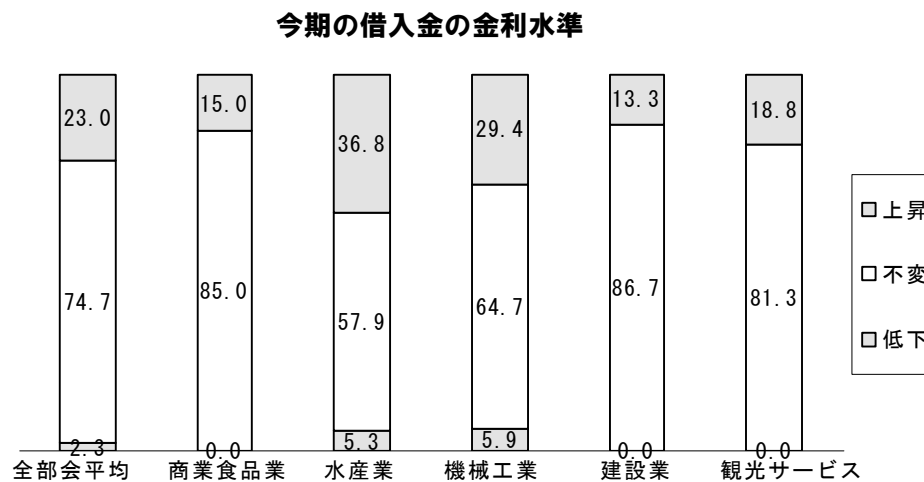
今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で 0.0 ポイント。商業食品業 5.0 水産業 $\Delta$ 5.3 機械工業 5.9 建設業 6.3 観光サービス業 $\Delta$ 12.5

## (6) 今期の借入金の金利水準

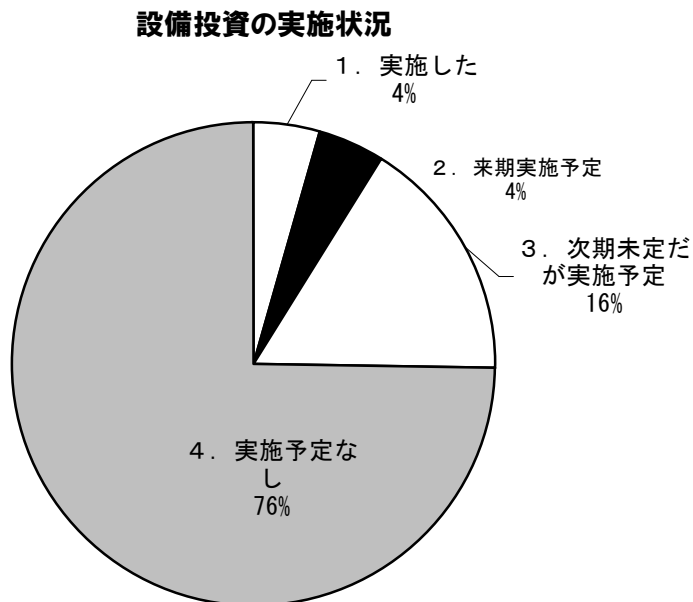
【前年同期比】（平成 19 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で+20.7。商業食品業 15.0 水産業 31.6 機械工業 23.5 建設業 13.3 観光サービス業 18.8。

## (7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

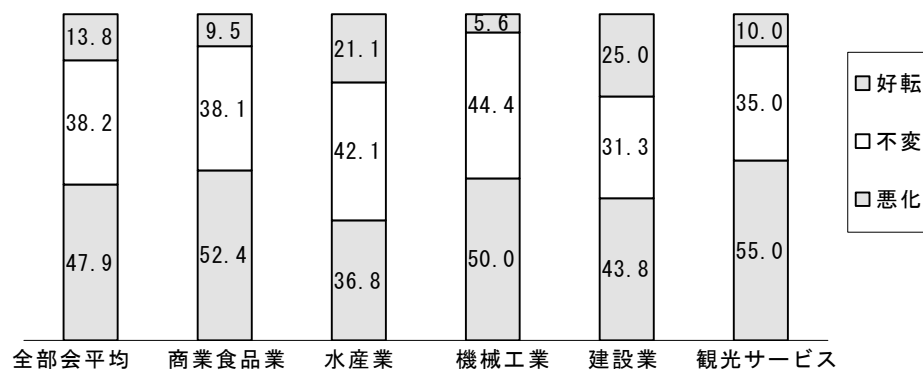


### 3. 来期の見通し

#### (1) 来期の業況

【今期比】（平成20年1月～3月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

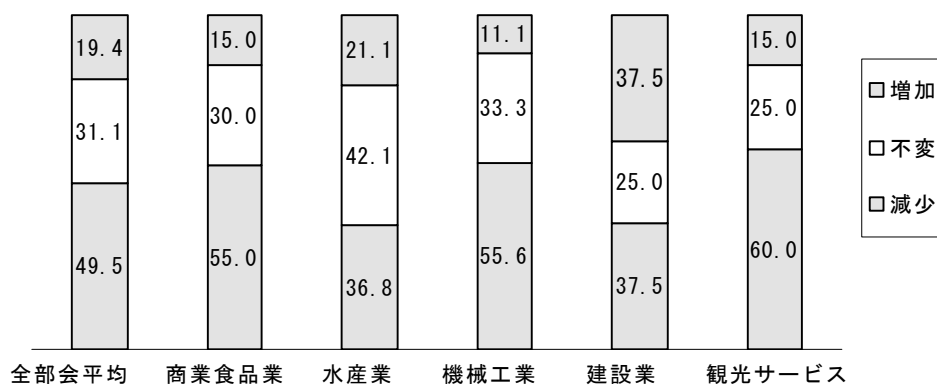


全業種平均DI値 $\Delta$ 34.1 [今期の業況（前年同期比 $\Delta$ 37.3）より3.2ポイント回復の見通し]

#### (2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成20年1月～3月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

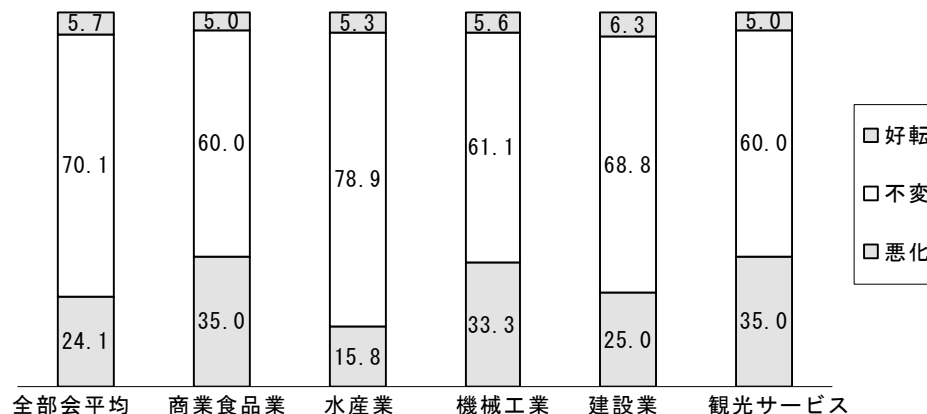


全業種平均DI値 $\Delta$ 30.1 [今期の売上高・生産高（前年同期比 $\Delta$ 33.3）より3.2ポイント回復の見通し]

### (3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 20 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

#### 次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値  $\Delta 18.4$  [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 19.6$ ）より 0.8 ポイント改善の見通し]

## Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	$\Delta 37.3$	$\Delta 38.1$	$\Delta 26.3$	$\Delta 33.3$	$\Delta 31.3$	$\Delta 55.0$
	来期見通し	$\Delta 34.1$	$\Delta 42.9$	$\Delta 15.8$	$\Delta 44.4$	$\Delta 18.8$	$\Delta 45.0$
売上 D・I	今期実績	$\Delta 33.3$	$\Delta 20.0$	$\Delta 21.1$	$\Delta 38.9$	$\Delta 31.3$	$\Delta 55.0$
	来期見通し	$\Delta 30.1$	$\Delta 40.0$	$\Delta 15.8$	$\Delta 44.4$	0.0	$\Delta 45.0$
在庫 D・I	今期実績	$\Delta 5.1$	+10.0	$\Delta 21.1$	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	$\Delta 38.7$	$\Delta 25.0$	$\Delta 31.6$	$\Delta 44.4$	$\Delta 50.0$	$\Delta 45.0$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	$\Delta 19.6$	$\Delta 15.0$	$\Delta 5.3$	$\Delta 27.8$	$\Delta 6.3$	$\Delta 42.1$
	来期見通し	$\Delta 18.4$	$\Delta 30.0$	$\Delta 10.5$	$\Delta 27.8$	$\Delta 18.8$	$\Delta 30.0$
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	0.0	+5.0	$\Delta 5.3$	+5.9	+6.3	$\Delta 12.5$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	20.7	15.0	31.6	23.5	13.3	18.8
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。